芦生の花期調査について

登尾　久嗣

1.はじめに

芦生演習林は、暖帯落葉樹林帯から温帯落葉樹林帯へ移行する地域にあり、また気候的には日本海型から太平洋型への移行帯に位置するため植物種の多いことは周知の事実である。しかし植物の花期については調査されていないのが現実である。また近年、芦生演習林を訪れる人が多くなり、それらの人の中には林内の花期についての質問が多く、今後こうした要求がますます高まってくるであろう。そこで、数多い植物種の一部にすぎないが、過去２年間行った調査の概要を報告する。尚、今回は紙面の都合から木本のみにとどめ草本については次回に報告する予定である。

本調査にあたり、芦生演習林に在職中一緒に調査も行い、またいろいろ御教示いただいた現鳥取大学乾燥地研究センターの山中典和講師に厚くお礼を申し上げる。

2.調査地と調査方法

芦生演習林には、総延長34ｋｍの林道が開設されている。この林道の沿線を見るだけでも数多くの花が見られるが、今回は幹線林道である事務所構内から長治谷間の沿線を、標高の低い事務所構内（標高356ｍ）～幽仙橋（標高476ｍ）と標高の高い欅峠（標高765ｍ）～長治谷（標高640ｍ）の２区間に分け花期の比較を行った（図―１）。事務所構内と長治谷では標高差が284ｍあり、平均気温で２度、最大積雪深で１ｍの差がみられる。

本調査は、別に報告するフェノロジー調査と同時に週１回目視により開花（数輪開花）から落下（数輪残花）までをチエックする方法で行った。なお、開花時期を見逃したものについては今回は調査対象から除外した。

3.調査結果

花期調査の結果は、表１～２に示すとおりである。２年間の継続調査を基本にしたが、１年の調査しかできなかった種が多く決して十分な調査とはいえない。一応、開花の早い順に整理したが、芦生においても３月下旬から１０月下旬まで何らかの花が途切れることなく咲いていることがわかる。また、同一種であっても、気候や標高のちがいにより花期に差があることもわかる。特に春一番に咲くマンサクをみると構内～幽仙橋間と欅峠～長治谷間では22～25日の差がある。

全体を通していえることは、当然とはいえ春の花の開花は雪解けの早い年の方がはやく、夏の花は気温の高い年ほど早く、秋の花は気温の低い年の方が早い傾向がある。

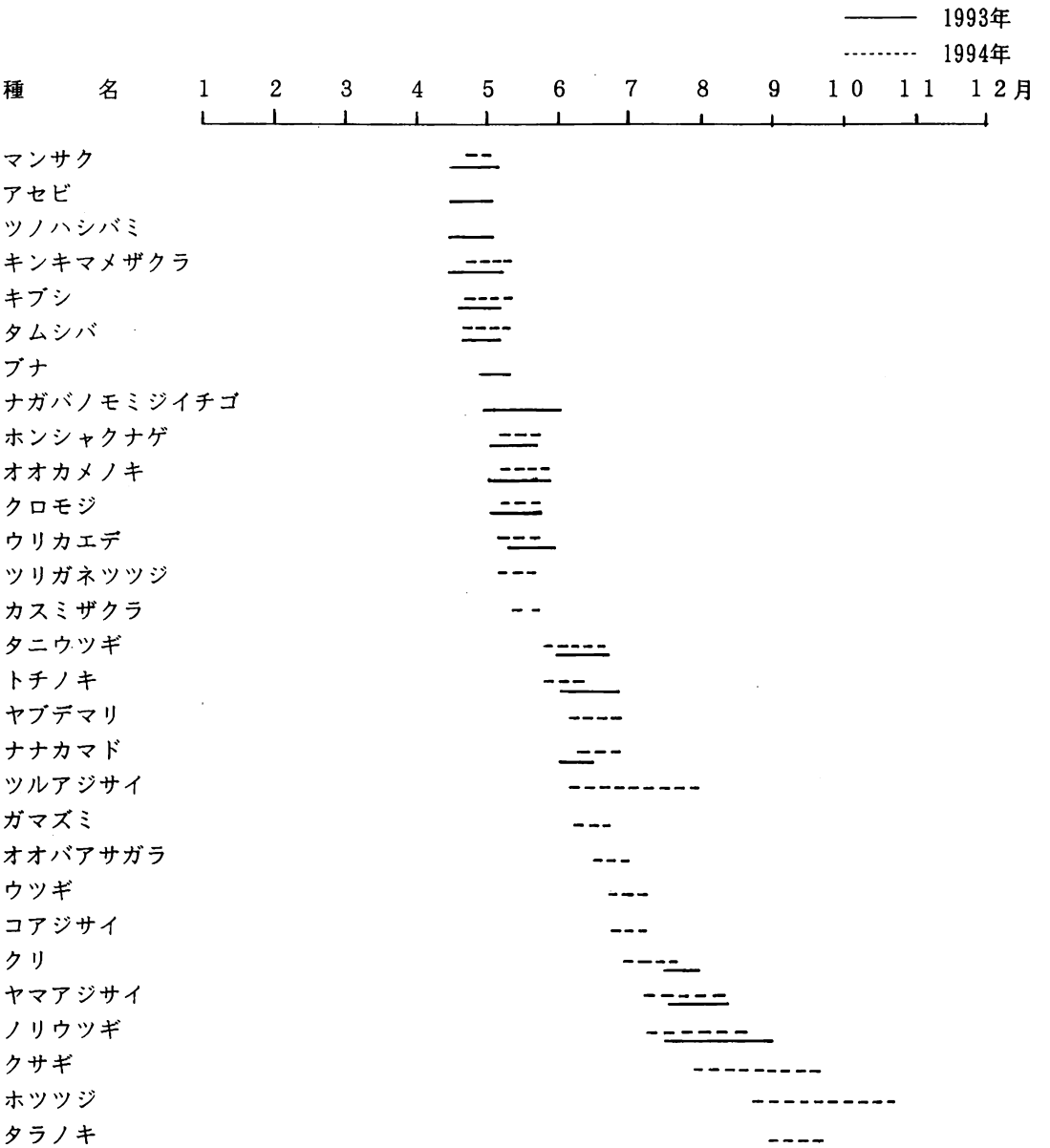
4.おわりに

本調査は、少しでも時代の要求に応えられるように身近な所（林道沿線）からはじめたもので

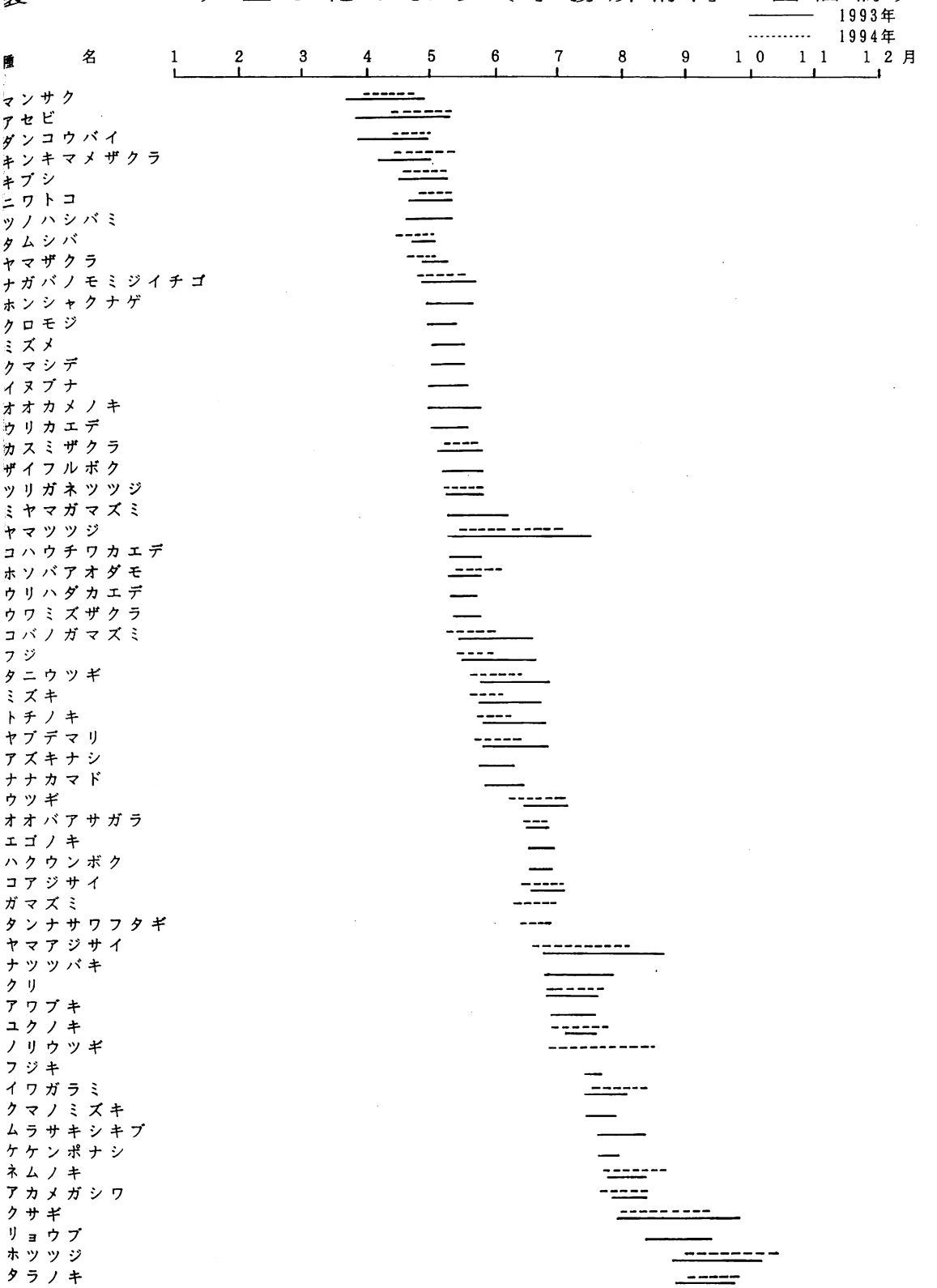
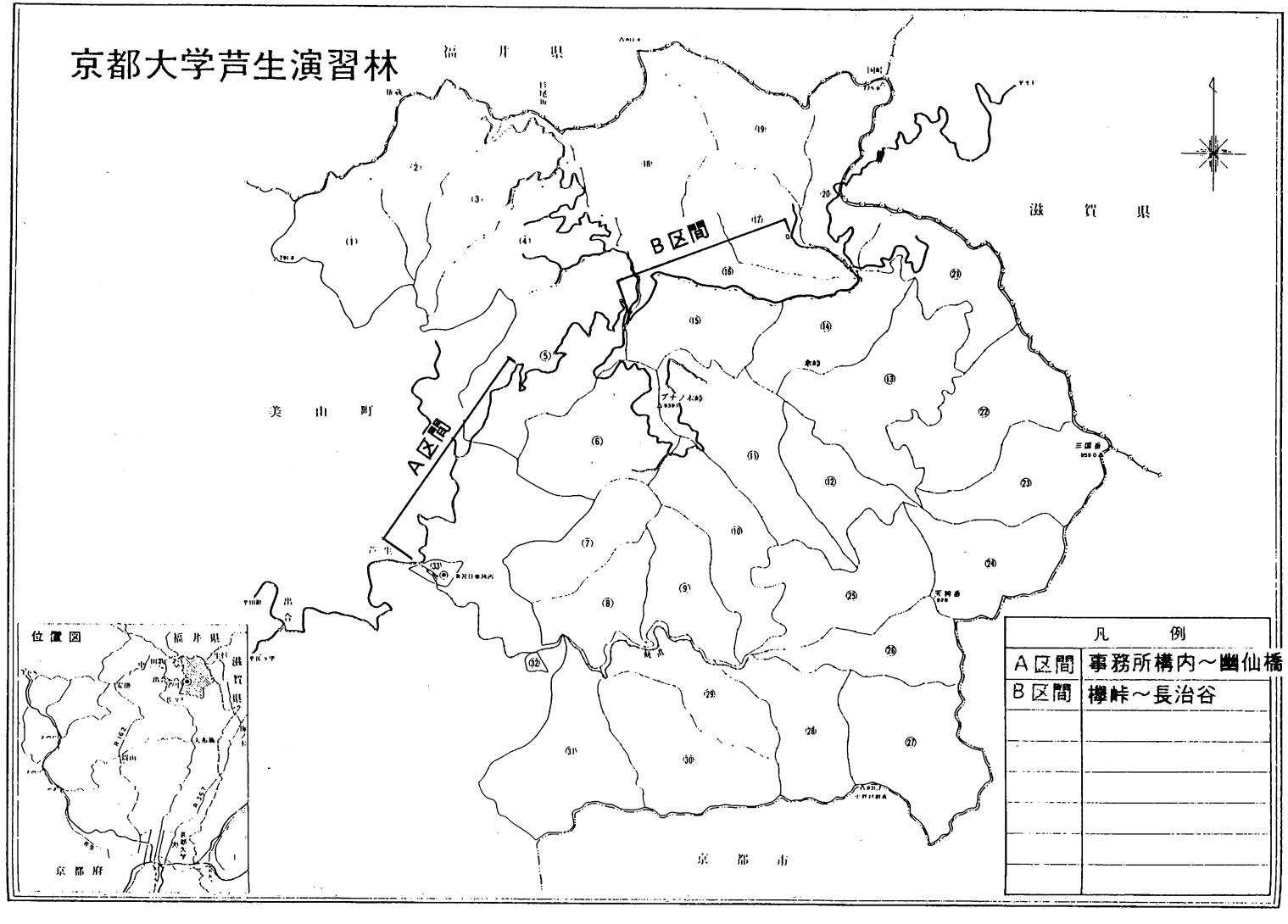
決して十分なものとはいえないが、少しでも芦生を訪れる人たちや花の愛好家の参考になれば幸いである。

今回の調査は場所や個体をあまり考慮にいれず手あたり次第に同種のもの数本を対象に調査をしてきたが、次回は場所、個体を限定し標高や気象条件からみた同種の花期の違いを明らかにすると同時に、身近なところで残っている種について今回と同様の調査も並行して行いたい。調査の方法に名案があれば御教示願いたい。

表―Ⅰ　芦生の花ごよみ（欅峠～長治谷）



表―Ⅱ　芦生の花ごよみ（事務所構内～幽仙橋）



図－1　花期調査区間位置図